



副詞

強調: もう、いよいよ、本当に、一番、いろいろと、大変に

- あいつは馬鹿だよ、本当に。

留保: あまり、大体、それくらいは、きっと

- だけどその人はね、しかし好きなときに収入があるんだね、きっと。(「録音器」『言語生活』277号)
- それで練習にならない、あまり。(「録音器」『言語生活』268号)



副詞節

- 九鬼の突然の死は、勿論、この青年の心をめっちゃくちゃにさせた。しかし、九鬼の不自然な死をも彼にはきわめて自然に思はせるような残酷な方法で。
(堀辰雄『聖家族』)
- その紙切れを久田幹夫に見せると、からはやや眉を寄せ、それでも桂木夫人のほうをみつめた。夫人に気づかれぬように心を配った眼差しで。しかもそこに素材の対象を見るときの冷たさをひそませて。
(原田康子『挽歌』)



副詞節

しかし、しかも、もっとも、無論、といっても
→聞き手・読者が想起しそうな内容について
訂正したり、つけ加える役割をしている。